2026年11月18日

報道関係者各位

兵庫医科大学

【アジア初】国際疼痛学会 最高栄誉「John J. Bonica Prize」を兵庫医科大学 野口光一客員教授が受賞

兵庫医科大学 解剖学 神経科学部門 客員教授 野口 光一（本法人 副理事長）は、タイ・バンコクの Bangkok International Trade & Exhibition Centre（BITEC）で開催された「2026 世界疼痛会議」において、国際疼痛学会（IASP）より「IASP 2026 John J. Bonica Prize for Distinguished Lifetime Achievement in the Basic Science of Pain」を授与され、授賞式への出席および受賞講演を行いました。



IASP 会長 Dr. Andrew Rice から野口客員教授へトロフィーの授与

本リリースのポイント

- **アジア初の快挙**：国際疼痛学会（IASP）の最高賞「John J. Bonica Prize」（歴史上 18 名選出）を、本学 解剖学 神経科学部門 客員教授 野口 光一がアジアから初めて受賞。
- **40 年の研究を成果発表**：タイ・バンコクの「2026 世界疼痛会議」にて、神経可塑性に関する 40 年間の疼痛基礎研究成果をまとめた受賞講演で登壇。

受賞の背景と「John J. Bonica Prize」意義

「John J. Bonica Prize」は、IASP の創設者である Dr. John J. Bonica の名を冠し、疼痛基礎研究分野において生涯

にわたり顕著な業績を挙げた研究者に贈られる同学会における最高の栄誉とされる賞です。50 年を超える IASP の歴史において、これまでに選出された研究者はわずか 18 名に限られており、野口客員教授はアジアから初めての受賞者となる快挙を成し遂げました。今回の受賞は、野口客員教授が 40 年間にわたり展開してきた疼痛基礎研究の成果、ならびに教育・社会貢献活動を通じた慢性疼痛の臨床的理解への世界的な貢献が国際的に高く評価されたものです。

受賞講演の概要と反響

世界疼痛会議のメインプログラムであるKeynote Prize Lectureにおいて、野口客員教授は“Molecular Histochemical Analysis of Neuroplasticity-Related Gene Expression in Pain Pathway”（和文題名：疼痛経路における神経可塑性関連遺伝子発現の分子組織化学解析）と題した受賞講演を行いました。

講演では、40 年にわたる研究の歩みを「神経可塑性（Neuroplasticity）」の観点から包括的に解説しました。基礎研究の知見を臨床家にも理解しやすいよう簡潔かつ工夫を凝らして発表し、光遺伝学などの先端技術を用いた新たなアプローチを含め、多くの参加者から高い評価を受けました。

解剖学 神経科学部門 客員教授 野口 光一 コメント

今回、私が長年活動の場としてきました国際疼痛学会(IASP)より、John J. Bonica Prize という最高の賞をいただきました。40 年間の疼痛基礎研究の成果が国際的に高く評価され、しかも大部分の研究成果が兵庫医科大学で行ったものが認められたことは、極めて光栄なことであり嬉しく思っております。30 分の受賞講演ではその 40 年間を簡潔にまとめて、臨床家にもわかりやすいように講演してまいりました。

今後の展望

兵庫医科大学は、疼痛基礎研究および疼痛治療の両面において常に最先端の成果を追求してまいりました。今回の受賞を大きな契機とし、今後も疼痛学研究の発展と医療・社会への還元を目指し、リードし続けてまいります。

【本プレスリリースに関するお問合せ】
学校法人兵庫医科大学 総務部 広報課
電話番号 0798-45-6655 ／ E-mail kouhou@hyo-med.ac.jp